

Glossadelphus Saitoi Sak

(Sematophyllaceae) n. sp について

斎藤佐一

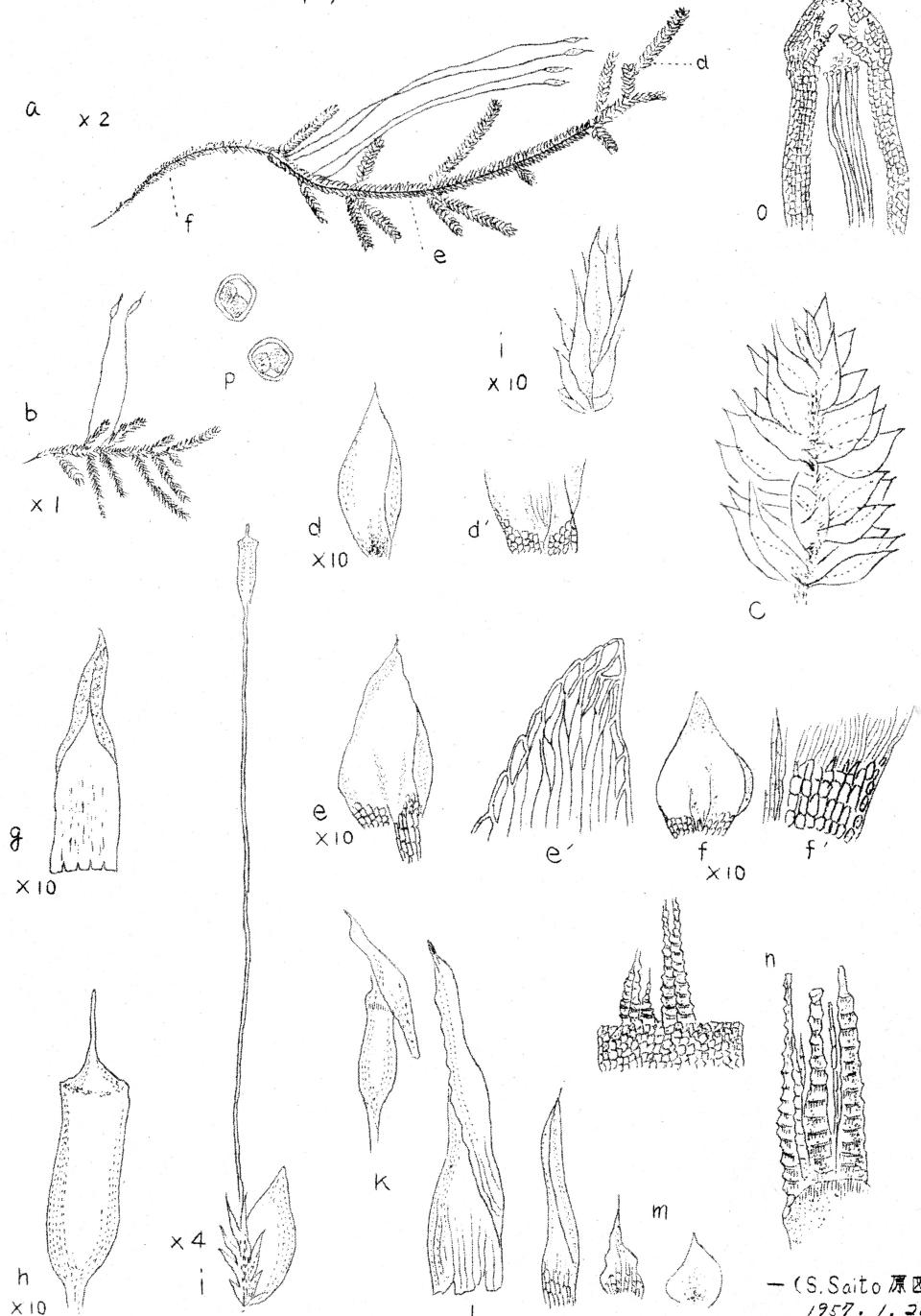
1955年10月23日に、今立郡池田村冠山の山ろく、湿じゅん陰地で採集した舞妓が共立県大桜井蕨探の同定により新種とわかつたので、お知らせ致します。

ハシボソゴケ科 ヒラツボゴケ属 和名未定

当地(山地)に多く産する *Heterophyllum Haldanianum* (Greb). kdb. クチキノクサゴケ(主に杉樹基幹) *Brotherella Henoni* (Duby) Fl. カガミゴケ(山陰地)の同科に属し、鮮度は密で系かく。その状特に前者に似、色は黄緑色を呈し、蒴柄形成後は、纖細紅色の蒴柄多数混じて美しい。清水したたる湿じゅん地に、主に一種で群生し、少少光沢をもつている。茎長(a, b) 3~6 cm. 茎を含めて梗径1.5~2 mm. 茎葉(?) 根葉(?) には葉を含めて梗径1.5~2 mm. 茎葉(e) よく卷きし大きさく、上部に純小鋸歯をみどめる。下葉(?) 梗葉(d) には鋸歯なく、何れも、葉は稍密に左右に開出し、葉長 0.6~1.0 mm 葉巾 0.3~0.6 mm. 茎葉(e) よく卷きし大きさく、上部に純小鋸歯をみどめる。下葉(?) 梗葉(d) には鋸歯なく、何れも、葉は全身肋を欠き、葉身の1/2~1/4に双生不等の肋を有す。細胞は狭く々 6×40~50 μ 線状わん曲し、葉底は大形方形(20~30×14 μ)の細胞が3~5層に積みて、配列し、葉底の細胞まくは厚く(f') 葉底縁辺は(葉身1/4) 肥厚して、みえ、本種の特徴を示している。内花葉は披針細く長く漸尖、長さ0.7 mm 巾0.2 mm. 全刃で中上に波形あり。肋は、圓円形短葉の外花葉に少少認められる。舞蓋は若き舞蓋を保護するものとして葉全体をおおい、蒴成熟と共に脱落(K) 淡黄緑色、平滑、先端褐色のつのをもつ(g; K) 舞蓋は鶴はし状で0.3 mm 基部は黄褐色(O) 舞齒を包み(O) 舞とは強くついている。舞は、楕円状の円錐形をなし、長さ1 mm 巾0.4 mm 舞齒は、内外両舞齒よりなり(O) 外舞齒は(n) 披針漸尖、淡黄褐色、上部になるにつれ透明になり、横数多数(16~20)あり内舞齒は、透明細状である。胞子は、黄緑、褐色、稍球形、平滑、蒴柄は細長20~25 mm 下部3/4は紅紫色、上部1/4は淡黄緑色で平滑である。

Glossadelphus Saitoi Sak. n. sp

(Sematophyllaceae)

— (S. Saito 原図
1957. 1. 26) —